

実習オリエンテーション

感染対策について



感染制御部

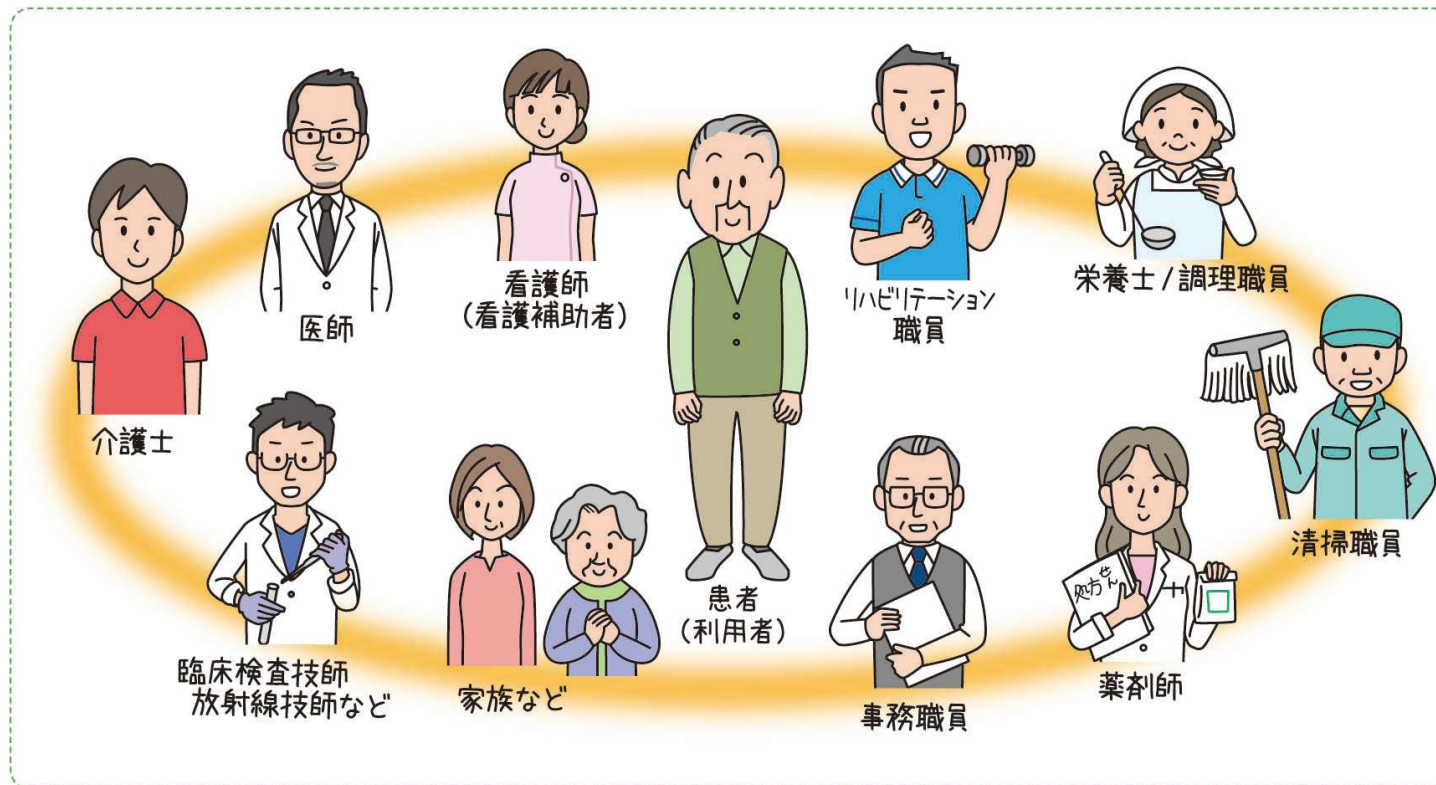
本日の研修内容

1. 病院の特徴と感染対策の基本
2. 標準予防策について
3. 実習中にお願いしたいこと

病院特徴

病院には・・・

- 免疫(抵抗力)の低下した患者がたくさんいる
- 高齢者が多く、乳幼児もいる
- 多くの人が集い、さまざまな人が働く場所



感染症の基本と対策

患者や医療従事者からの伝播はなぜ起きるのか

患者から他の患者に移動する際に、
医療従事者の手指衛生が適切に実施されていない
正しい個人防護具の着脱ができていない



医療従事者が
病原体を
媒介している

感染成立の3要素



細菌やウイルスは目に見えません

- 「微生物を持っても症状が出ない」ことは珍しくありません。微生物は症状がない人からも他人へ移動するため、気が付かないうちに微生物が広がってしまう。
- 微生物は目に見えないので、誰がなにを持っているかなんてわかりません。



拡がる前の標準予防策が重要！

大火事になる前に小さな火事で消し止めよう！

- 感染対策は火の用心と同じ。
大火事になる前に小さな火事で消し止める、
できれば火事の発生そのものを減らすことが大切
になる。
- 「感染症の有無にかかわらず」、すべての人に対し
て「もしかしたら、この人も何かの有害な微生物を
持っているかも」と思って感染対策を行う
「標準予防策」が重要です。



標準予防策が必要な理由

知られている感染は氷山の一角



ウィンドウ期とは
ウイルス感染後、検査で
感染が確認できない期間のこと

- ・ B型肝炎ウイルスは約60日
- ・ C型肝炎ウイルスは3カ月
- ・ HIVは2カ月



だからこそ
標準予防策が必要

標準予防策で必要な手指衛生

すべての感染対策の基本となり、
感染防止に対して最も重要な役割を果たす

1. 流水と石けんを使って手洗いが必要 全行程40～60秒



- ・ 血液や体液が付着した場合
- ・ 目に見える汚れで汚染された場合
- ・ アルコールに抵抗性のある病原体に触れた場合

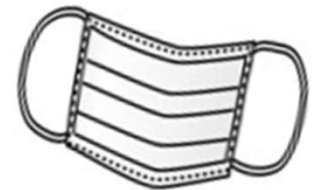
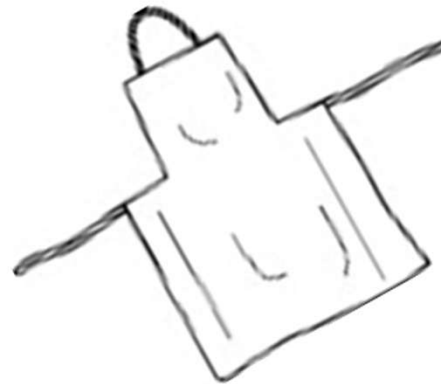
2. 擦式アルコール製剤の使用 全行程20～30秒



- ・ 手指に目に見えて汚れがない場合
- ・ 衛生的手洗いが必要な場合

標準予防策で個人防護具を使用する目的

1. 自分を感染から守る
2. 患者への伝播を防ぐ
3. 環境の汚染を防ぐ



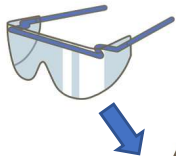
標準予防策で必要な個人防護具



手が汚染する恐れのある場合
手袋着用



ユニフォームが汚染する場合
エプロン/ガウン着用



飛沫で汚染を受けそうな時
マスク
必要によりフェイスシールド



手袋をしていれば手指衛生をしなくても
感染対策は万全ですか？

正解は . . .



JIS規格における各種手袋の検査水準

検査項目	A Q L		
	手術用	歯科用	検査・検診用
寸法 (幅、全長、厚さ)	4.0	4.0	4.0
ピンホール試験	1.5	2.0	2.5
物性 (引張力、伸び)	4.0	4.0	4.0

J I S : Japanese Industrial Standards (日本工業規格)
A Q L : Acceptable Quality Level (合格品質基準)

100枚中2枚にはピン
ホールの穴が開いて
いるかもしれません

手袋着用前後で手指衛生をしましょう！



正しいマスクの装着

○ 正しい装着



鼻のラインに
合わせて
折られている

鼻が
隠れている

あごが
隠れている

×



鼻が隠れていない

×



プリーツ (ひだ) が
開いていない

実習中にお願いしたいこと

うつさない、もらわない、拡げない対策が必要です

【体調管理】

1. 体調不良時は、担当教員に相談しましょう
2. 実習中のサージカルマスク着用、咳エチケット、手指衛生の徹底をしましょう
3. 途中で気分が悪くなったら、遠慮せず早めに申し出ましょう



実習中にお願いしたいこと

【自宅での過ごし方】

1. しっかりご飯を食べましょう
2. しっかり寝ましょう
3. 病院にいない時間帯も実習で免疫が低下している患者を担当する意識をもって行動しましょう



おわりに

ひとりだけができていても
ひとりだけができなくても
上手くいかないのが感染対策です

病院内にいる一人ひとりの
感染対策の実践にかかっていますので
一緒に取り組みをお願いします

